

再訪 2026.4.7(火)-7.26(日)
 日本映画ポスター芸術

国立映画アーカイブ展示室(7階)

開室時間:午前11時-午後6時30分(入室は午後6時まで)
 *4/24、6/26の金曜日は開室時間を午後8時まで延長いたします。(入室は午後7時30分まで)
 料金:一般250円(200円)/大学生130円(60円)/
 65歳以上、高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方(付添者は原則1名まで)、国立美術館のキャンパスメンバーズは無料
 *料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。
 *()内は20名以上の団体料金です。
 *学生、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、キャンパスメンバーズの方は入室の際、証明できるものをご提示ください。
 *国立映画アーカイブが主催する上映会の観覧券(オンラインチケット「購入確認メール」またはQRコードのプリントアウト)をご提示いただくと、1回に限って団体料金が適用されます。
 主催:国立映画アーカイブ
 国立映画アーカイブホームページ www.nfaj.go.jp/
 X(旧Twitter):@NFAJ_PR Facebook:NFAJPR Instagram:nationalfilmarchiveofjapan



映画作品の宣伝メディアとして、劇場や街角に貼られてきた映画ポスター—日本の場合、そのほとんどは製作・配給会社のコントロールのもとで匿名的に作られてきました。しかし歴史の糸をたどれば、その枠に収まらず、自立したグラフィック作品としての価値を主張するポスターを見つけることができます。

とりわけ1960年代以降はさまざまな才能が映画界と交差しました。映画・美術・文学・演劇などのジャンルが絡まり合う中で粟津潔・横尾忠則・和田誠・石岡瑛子といった新世代のデザイナーが登場し、また日本アート・シアター・ギルド(ATG)の発足が業界内外のデザイナーを刺激したことで、映画芸術の革新の動きに並走する形で旧来のポスターのスタイルを容容させます。

この展覧会は、2012年に当館が主催した「日本の映画ポスター芸術」展を基に、それ以降の新たな収蔵品を加えて開催するもので、主に1960年代から1980年代に制作された90点以上のポスターを通じて映画とグラフィズムとの結節点を探ります。映画の情感を見事にすくい取ったものもあれば、意外性に驚かされる一枚も見つかるでしょう。スクリーンの外側に花開いた映画芸術のもう一つの「顔」をお楽しみください。

Used as promotional media for films, film posters have been displayed in theaters and on street corners. In Japan, most of them have been created anonymously under the control of production and distribution companies. However, if we trace the threads of history, we can find posters that push beyond these boundaries and assert their value as independent graphic works.

Especially since the 1960s, various talents have intersected with the film industry. In the intertwining of genres like film, art, literature, and theater, a new generation of designers appeared, including Kiyoshi Awazu, Tadanori Yokoo, Makoto Wada, and Eiko Ishioka, and the founding of the Art Theatre Guild (ATG) stimulated designers both within and outside the industry. This transformed conventional poster styles, in a track running parallel to the movement for innovation in cinematic art.

This exhibition builds upon The Art of Film Posters in Japan, an exhibition hosted by the NFAJ in 2012, incorporating new acquisitions since then. It explores nodal points of film and graphic arts through over 90 posters, most of which were created between the 1960s and 1980s. Some masterfully capture the emotional depth of a film, while others incorporate elements of surprise. Please enjoy another aspect of cinematic art that has flourished away from the screen.

交差する《シネマ》と《グラフィック》

展覧会の構成

- 第1章 《描く》映画ポスター —戦後期
- 第2章 新世代のデザイナーたち —1960年代
- 第3章 ATG(日本アート・シアター・ギルド)の衝撃
- 第4章 映画に挑んだデザイナー／アーティスト

トークイベント

* 詳細は後日ホームページなどでお知らせいたします。

展示品解説

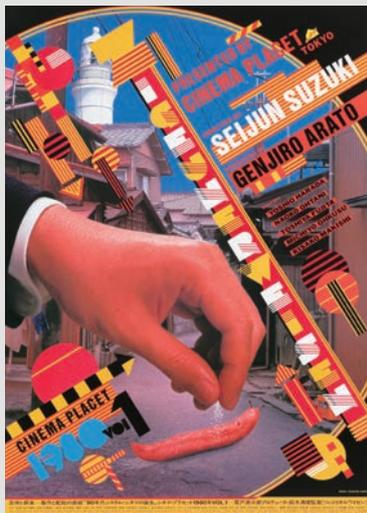
—フィルムからポスターを読む

開催日:2026年5月23日(土)、7月18日(土)
講師:岡田秀則(当館主任研究員)
場所:展示室内(7階)

絵画による映画ポスターの時代

—野口久光・土方重巳

開催日:2026年6月6日(土)
講師:根本隆一郎
(NPO法人古き良き文化を継承する会代表)
場所:展示室ロビー(7階)



図版(左上から右下、特記を除きすべて当館所蔵、年は日本公開年)

[表] 粟津潔『リトアニアへの旅の追憶』(1973年/アメリカ/ジョナス・メクス監督)/石岡瑛子・滝野晴夫『地獄の黙示録』(1980年/アメリカ/フランシス・フォード・コッポラ監督)小野里徹氏所蔵/林静一『曼陀羅』(1971年/日本/実相寺昭雄監督)/横尾忠則『新宿泥棒日記』(1968年/日本/大島渚監督)/榎垣紀六『ジャンヌ・ダルク裁判』(1969年/フランス/ロベール・ブレッソン監督)/大島弘義『尼僧ヨアンナ』(1962年/ポーランド/イェジー・カヴァレロヴィチ監督)川喜多記念映画文化財団所蔵(撮影:山崎あゆみ)/和田誠『草月シネマテーク『怪奇と幻想』』(1967年)/杉浦康平・鈴木一誌『限りなく透明に近いブルー』(1979年/日本/村上龍監督)
[裏] 野口久光『禁じられた遊び』(1953年/フランス/ルネ・クレマン監督)/監野純治『気狂いピエロ』(1967年/フランス・イタリア/ジャン＝リュック・ゴダール監督)/小笠原正勝『恋の浮島』(1983年/ポルトガル・日本/パウロ・ロシーヤ監督)/木村恒久『ツイゴインルワイゼン』(1980年/日本/鈴木清順監督)リトルモア所蔵/佐藤晃一『利休』(1989年/日本/勅使河原宏監督)



長瀬映像文化財団

国立映画アーカイブは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6
お問い合わせ: ハローダイヤル 050-5541-8600
国立映画アーカイブホームページ
www.nfaj.go.jp/



- 交通
- ▶ 東京外環線銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
 - ▶ 都営地下鉄浅草線本町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
 - ▶ 東京外環線有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
 - ▶ JR 東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

